

ミッション

2019年度委員数：67名（6小委員会）

- 我が国の産業競争力向上のための施策について調査・研究活動を行い、**政府等関連機関に提言すべき政策課題について検討し、適時発信する**
- 企業の知財経営を推進するために有用な調査・研究を行い、実践的な情報を提言として発信する**

活動方針

- 2つのミッションに関する調査・研究をバランス良く行い、**新たな視点から検討を加え、産業界のオピニオンリーダーとなれるような提言をする**
- 委員会参加メンバーが活動を通じてそれぞれの日頃のマネジメント活動に有意義な「**知識、経験、人脈**」を得る

インプット・アウトプット

- インプット：**知財人脈の形成や他社・異業種の情報、官公庁（特許庁・経産省）/関連団体/海外の政策関係情報の入手**
- アウトプット：**知財管理誌への論説投稿、政府等への政策提言**

知財で新たな価値や提案をドライブする

2019年度 テーマ概要

知財経営の見地からみた経営デザインシートの活用法の探求

シェアリング時代の知財制度・知財マネジメント

知財人材のスキルシフトと非知財人材連携による知財組織マネジメント

SDGs参画企業の知財マネジメント

知財人材の「複業」

社内スタートアップに対応した知財活動のあり方

委員会の活動紹介

中間全体会議 2019年10月18日 於 マイステイズプレミア札幌パーク



2020年度 テーマ候補

- 社内外情報発信
- 知財人材・組織
- 2035年の知財
- 知財係争マネジメント
- 社内外連携
- データの利活用
- 地政学リスク

委員会活動

- 小委員会定例会議 月1回
- 委員会全体会議 年2回
- (正副委員長会議 月1回)

政策課題

知財経営の見地からみた経営デザインシートの活用法の探求

STEP 1 課題

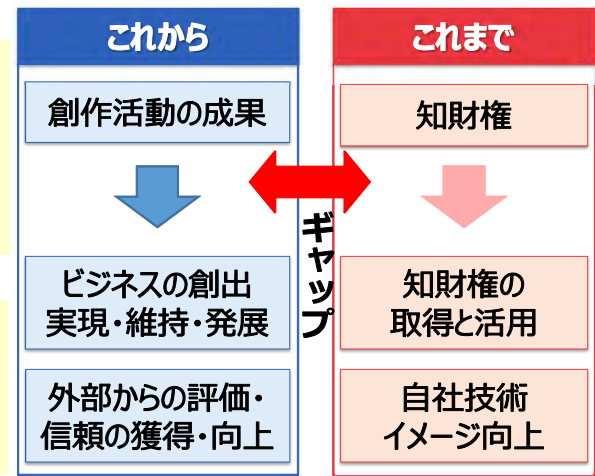
新たな価値を生み出す仕組みを**デザイン**することが重要と言われる中、知財部門は経営層や事業部門の**ビジョンの具体化のためのアクション**がイメージできているか

STEP 2 検討

知財部の役割に対する「**これまで**」の認識と「**これから**」のイメージとの**ギャップ**を埋め、経営デザインシートを活用した知財活動のあり方を検討する

STEP 3 アウトプット

経営層・事業部門への貢献に資する**知財活動強化・改革に向けた経営デザインシートの活用法**



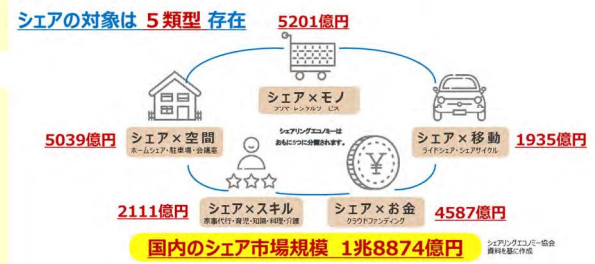
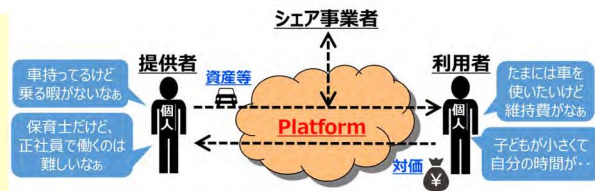
シェアリング時代の知財制度・知財マネジメント

STEP 1 課題

所有(モノ)から利用による**体験(コト)**重視、資源の有効活用、国・自治体の共助推進
シェアリングエコノミーの普及・市場規模は今後も拡大 ⇒知財に求められるものは？

STEP 2 検討

- 論点1：シェアリングエコノミーの発展に必要な知財政策・制度は？
- 論点2：既存企業がシェア事業者と協調できる知財マネジメントとはなにか？



STEP 3 アウトプット

- 訴訟や模倣品に関する**政策提言**
- データ・ソリューション共有を活用した既存企業の**知財マネジメント提案**

社内スタートアップに対応した知財活動のあり方

STEP 1 課題

社外のスタートアップへの支援や連携の強化とともに、**社内にあるリソースを活用**したい
わば「**社内スタートアップ(社内SU)**」の取組みも各社で行われているが、対応する知財活動についての整理や検討は十分とはいえない

STEP 2 検討

- 社内SUの意義、実態、特徴は？
 - **新市場進出**のための取組での多産多死
 - **ビジネスモデル&バリューチェーン**の模索
 - **スピードアップ**のためのヒト・カネ独立組織
- その社内SUへの**知財関与**の実態は？



STEP 3 アウトプット

社内SUに適した知財活動の提案(右図)

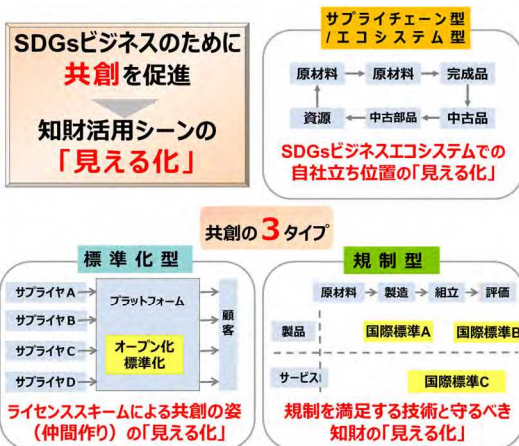
SDGs参画企業の知財マネジメント

STEP 1 課題

SDGsに関わる政策の検討・活動が活発化しており、**企業においてもSDGsの取り組みが今後益々重要**になるが、これに対応した知財戦略とそのマネジメントが十分議論されていない

STEP 2 検討

SDGsに関わるビジネスを「**見える化**」することで知財視点での貢献可能なポイントを明らかにし、**共創を促す知財権の活用方法**や**知財マッチング**等の観点から「**知財戦略**」について検討を行う



STEP 3 アウトプット

SDGs達成への「**知財戦略**」について、それを支援・推進する**知財組織・知財人材マネジメント**と共に提言する

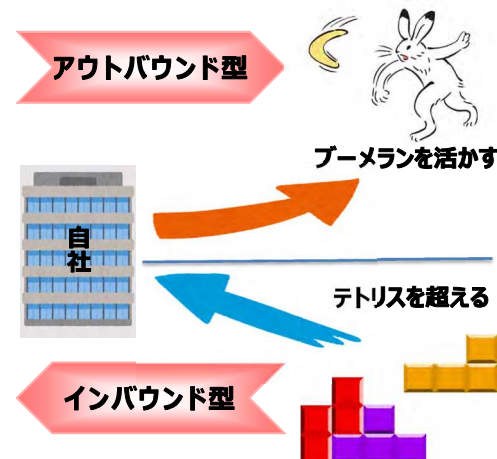
知財人材の「複業」

STEP 1 課題

働き方改革の流れの中で、「複業」が社会的に容認されつつある。知財部門においても、**知財人材の「複業」を前向きに捉え**、場当たりの対応にならないよう**人材マネジメントに組み込む必要がある**

STEP 2 検討

- 「複業」先進企業の実態調査
- 複業人材の受け入れ(インバウンド)と送り出し(アウトバウンド)に分けて**複業のメリット・デメリット**を整理
- 知財人材マネジメントにおける課題抽出と対応策の検討



STEP 3 アウトプット

知財部門における「**複業**」の**考え方、判断基準、意義ある活用方法**を提言

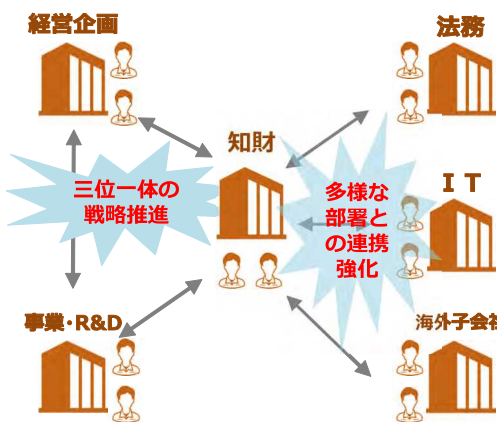
知財人材のスキルシフトと非知財人材連携による知財組織マネジメント

STEP 1 課題

近年、知財部門の**業務の幅の広がり**とともに、**知財権の取得・活用面での深化**も要請されている。「**新たな知財業務**」に取り組むために従来の知財知識・スキルを有する人材に加え、**様々な分野の知識・スキルを持った人材が必要**とされている

STEP 2 検討

先進企業ヒアリング、外国企業との比較等から「**新たな知財業務**」に必要な
①**知財人材のスキルシフト**、②**非知財人材の活用**、③**組織論**(どの部門が取り組むべきか)のあるべき姿を明らかにする



STEP 3 アウトプット

知財人材の**スキルシフト**、**非知財人材活用**のあり方
組織論を含めた**知財マネジメントのあるべき姿**